

第3回パレット標準化推進分科会における論点への構成員意見

「これからパレット化を行う事業者」に対して推奨すべき規格			
<p>＜案1＞ T11型のみ単独で推奨</p>	<p>・T11型1種類を推奨するのが良い。海上コンテナはインチ基準で、海外でも輸出の際には積み替えをおこなっている。輸入についても、海外でT11型を使ってもらえなければ積み替えは必要となる。本分科会は国内のドライバー不足が議論の起点であり、国内における生産性の向上という目的を重視するべき。2種類のパレットを管理するよりも1種類のパレットを管理する方が効率が良い。</p> <p>・加工食品等の業種分野における議論との整合性にも配慮は必要だが、他を排除する意図ではなく、これからパレット化しようとする事業者に対して特に推奨される規格を発信するという趣旨であれば、鉄道コンテナとの積み付け相性がよくない12型は入れずに、T11型のみを推奨する形で良い。ただしその場合も仕様については四方差しであるべき。</p> <p>・これからパレット化する事業者に向けたメッセージということであれば、将来的な規格の収斂も視野に入れてT11型のみを推奨で良い。</p> <p>・2種類の併記では、サイズを統一するという目的から逸れるため、使用率が高いT11型だけに絞るのが良い。グローバルを考慮して12型を推す声があるが、サイズが合っても国内外通じた循環は難しく、国内では国内事情に合ったT11型を推進する形で良い。</p> <p>・T11型で標準化までの道筋を把握した後、必要に応じて他のサイズの追加を検討する進め方がスピード感も出て良い。トップ1だけ明示するというのであればT11型だが、他にも浸透しているサイズがあるため「最も推奨される1つとそれ以外」と書き分けてもよいかもしれない。一方で、日本では主流のT11型も海外ではほぼ使用されておらず、先々を見て問題ないか、国際間でサイズを揃える必要がないか検討が必要。</p> <p>・積載効率を考慮すると、1種類のパレットに統一することが望ましい。</p> <p>・4t・10t・トレーラー・JRコンテナでの輸送はパレット、配送はロールパレット(かご車)を前提にした際にはT11型に収斂させることが肝要。経過期間を設け、倉庫オペレーション等の周辺環境を変えていくのが良い。</p> <p>・これからパレット化する事業者に向けた議論であれば、選択肢は絞ったほうが良いのではないかと。その場合T11型が最有力。</p> <p>・国内と海外は分けて考えた方が良い。海外からの調達コスト全体で見ると、国内集配について時間の持つ意味が異なってくる。本分科会の議論の目的は国内の生産性向上であり、当面、国内問題としてとらえるのが良い。そうすると2種類ではなく1種類を推すのが良く、T11型が自然。さらに2方差し・4方差し、強度のことまで議論する必要がある。</p> <p>・過去の検討結果も踏まえると、T11型で推し進めるのは異論なく、その点は議論済みという認識。手荷役をなくすという目的であれば、主流のトラックに積み卸しのしやすいT11型に絞って進めていくのが良い。今後のトレンドとしてワイド型トラックが主流となる可能性は低く、どのトラックにも使用可能な汎用性の高いサイズを優先的に発信したほうが良い。</p> <p>・T11型の1種類が運用も含め標準化されることが最も効率的である。</p> <p>・2種類並存では積み替えが生じてしまう。一貫パレチを目指すのであれば1種類を推すべき。国内の流通量を見てもT11型が優勢。グローバルを考えた際には、規格だけでなく運用面も一緒に考えなければならない。現状、パレットは課税対象となるため、輸出の際は各社使い捨てのシートパレット利用が多く、12型を使ってもすぐにグローバルでの循環が実現するわけではない。</p>		
	<p>＜案2＞ 12型のみ単独で推奨</p>	<p>(該当意見なし)</p>	
	<p>＜案3＞ T11型と12型を推奨</p>	<p>・外せないものということであれば「JISZ0650の2サイズ(T11型・12型)」と明記すべき。また、より現実的な標準化を想定した場合、正方形の積載面に収れん:T11型、長方形の積載面に収れん:12型、国内物流のみ:T11型、国内物流+海外向け物流:12型という選択肢を持つことができる。また、対象企業に向けたメッセージは「押しつけ感」が出ないような配慮も必要。</p> <p>・JISZ0650でも必要な議論を踏まえて12型が追加されている以上、ガラパゴス化を避けるためにも、ある程度の選択の幅を許容する意味でも、改定後のT11型と12型の両方を推奨すべき。標準規格についてはある程度関係者の認識もT11型と12型に収れんしていると考えられるため、新たに標準規格を考えるというよりも、既に定められている標準規格の広報と同時に、利活用を推進する機運づくりが必要。</p> <p>・サイズは現状を踏まえて検討すべきであり、国内であればT11型、国際も視野に入れるのなら12型が入ってくる。1種類に統一すべき、という意見は究極の原理主義であり現実的ではない。JISで推奨されているいくつかのパレットを許容するのが良いのではないかと。</p> <p>・本来は一規格への収斂が望ましいが、現実的には難しい。日本国内で絞るならT11型のみでも良いが、グローバルを考えると12型は議論の俎上に載る可能性がある。ただし、海外とサイズを揃えることの実利があるかは要検討。将来を見据えると、方向性としてはJISでも定められているT11型・12型の両論併記で良いのではないかと。</p> <p>・青果物分野においてもT11型を基本とする動きがあるが、海外との接続、折りたたみコンテナサイズとの整合性、ヨーロッパの製品がユーロパレットに整合した規格である点などを加味すると、12型が適する場面もあるため、両方を記載する形が望ましい。</p> <p>・事業者への適切な調査と専門家による議論が必要であるが、T11型・12型が推奨規格にあたると思われる。なお、パレット規格の標準化は、鉄道コンテナやトラック荷台サイズなど、周辺インフラにも影響があることや国際的な動向にも留意して検討を進めるべき。</p>	
		<p>＜案4＞ T11型と12型を併記しつついずれかをより優先的に推奨</p>	<p>・最終結論として、完全に1種類になることはないのではないかと。また複数の規格を標準規格とした場合でもランクを分ける方法も有り得る。</p>
		<p>その他の意見</p>	<p>・デファクト化しつつある規格を推奨規格として発信するのが良い。具体の規格をどうするかについては利用実態や各社意見を踏まえ決定するのが望ましい。</p>